

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	株式会社 新上五島在宅ケアセンター		
事業所名	グループホームあいらん 一番館		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果確定日	平成27年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku_jo/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=4271601223-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成27年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりとを人と人とのふれあいを大切に」の理念のもと、利用者様の日常生活の支援をさせていただいております。「笑顔がいっぱい咲きますよう」とテーマを掲げ、日々穏やかに表情豊かに生活できる雰囲気づくりや言葉かけを心がけ、利用者様がその人らしく暮らせるように寄り添った支援に力を入れています。

代表者の思いが籠った理念に基づいて、どのように行動したら理念に沿った支援ができるかを主任と職員で考え、より分かりやすい言葉でテーマを作成し、利用者一人ひとりに寄り添った細やかな支援に取り組んでいる。職員は、理念やテーマをよく理解して、公休日でも施設の行事に協力、参加する等、「自分の親を入所させたいと思える施設」を目指して日々、利用者のために頑張っている姿は、この施設の誇りとなっている。また、地域の行事に積極的にに関わり、地域に暮らす馴染みの友人が気楽に訪問する等、地域と繋がりがながら暮らしを続ける環境を整えている。その地域との繋がりが、利用者の表情の豊かさに繋がっている。「笑顔がいっぱい咲きますよう」をテーマに、利用者の命を守る基本的な生活の営みを大切に支援し、利用者の笑顔と家族の信頼と安心を築いている。地域に密着した笑顔溢れる施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目の触れやすいところに掲げ、共有して実践している。	法人の理念に基づき、代表者が理念を作成している。各ユニットや階段に掲示し、代表者が、会議や回覧で常に理念について職員に話しをすることで、全職員に理念が浸透している。理念に沿って、主任を中心に職員でテーマを作成し、利用者の笑顔のためにどのように関わったらいいのか職員が自ら考えながら日々支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事・保育所・小学校・老人クラブ、散歩時のあいさつで日常的に交流している。	職員手作りの龍踊りや劇を地域のお祭りや敬老会で披露する、神社の行事や保育園の餅つきに参加する、地域の老人会との交流、地域の人が散歩の途中で立ち寄り話しをする等、地域との繋がりを大切にしている。地域活動や人々との関わりを積極的に持つ事が、利用者の表情の豊かさに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問・ホーム見学・地域行事において実践を踏まえて関わりながら理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、ご家族様を交えて情報交換ができ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議を茶話会、意見交換の場として捉えることで、市の職員や民生委員、家族が気楽に質問や意見、要望を発言できる環境を作っている。家族からの災害に関する心配事や相談に施設の代表や市の職員が答える等、双方向的な会議になっている。議事録は回覧して全職員で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは会議の参加により実情の把握をしていただき、意見交換・助言をいただき協力関係を築いている。	施設の行事に市の職員が参加する、市の職員が変わった時は施設に見学に来てもらい、施設の内容を説明したり質問に答えることで、施設の考え方や現場の状況を伝えている。市の職員が施設の事務所によく立ち寄る等、顔の見える関係を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や玄関の施錠をしない。見守りを重視したケアに取り組んでいる。	利用者の想いに寄り添うことを大切にして職員は環境を整えている。利用者の状況をよく観察し、不穏時は1対1で話し相手をする、散歩に行く等、利用者の想いを受け入れ、安心して過ごす工夫を重ねている。施設の方針でセンサーマットは敷かず、転倒しないように家具の配置を検討する、ベッドの下に布団やクッションを置く等、利用者の安全を守る支援をミーティングで考え、職員の動きを統一している。また、外部研修にも参加し、研修内容は研修報告会や資料回覧で共有し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会があり、日々の生活の中でスタッフ間で言葉をかけあったり、会議の中で知識を深め虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要のある利用者様はいない。学ぶ機会があれば参加して、スタッフ間で情報は共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し、十分な理解・納得での契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろからご家族様には状況報告を密にし、意見・要望は取り入れ実践に努めている。	入浴中は気分もほぐれて利用者との会話が弾むため、入浴中に利用者の要望を把握することが多い。家族の意見や要望は、施設の行事や運営推進会議、年1回の家族を交えた1泊旅行等で家族との会話の中から捉え、職員の勤務を調整して行事を検討する等、出された意見を日々の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・朝礼・終礼が行われている。代表者からは回覧が発行されている。連絡ノートを活用し、情報の共有・実践に取り入れている。	利用者の状況や動きをよく知っている職員の意見やアイデアを、日々の支援の中で主任や管理者に伝えやすい環境を作っている。職員のアイデアで、椅子を作成し、浴室内の車いすからの移乗を安全に行うようにする、いざって移動する利用者には、椅子の足を切って専用の椅子を作成する等、職員の意見を活かし、利用者一人ひとりに寄り添う支援は利用者の笑顔と職員の働く意欲の向上や質の確保に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ間の生活状況を考慮し、就業環境の整備、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加に配慮している。定期的に勉強会で知識を深め、成長できる取組を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会での意見交換を行い、サービスの質の向上を目指し、取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の自宅訪問調査やホーム見学をしてもらったり、本人様の要望に対応できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問やホーム見学をしていただき、コミュニケーションを大切にしている。意見・要望を話しやすい雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族様の意向をしっかり受け止め、納得していただけるサービスを利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」という意識のもと、尊敬の意を持って接し、心に寄り添った関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添い、コミュニケーションをとり、信頼関係を作り、ともに本人様を支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に沿った外出支援、電話・手紙、面会時はゆっくり過ごしていただけるよう雰囲気作りにも努めている。	利用者のこだわりや大切にしているものを家族に聞く、退院前に状態把握をする等、これまで培ってきた関係や身体状況を把握している。利用者が信仰している神社に散歩の途中で寄りお参りをする、法事に家族と行く、散歩時に近所の人と話しをする、馴染みの知人の訪問がある等、利用者のこだわりや生活習慣をケアプランに繋ぎ、一人ひとりの生活習慣が続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格・人間関係を把握し、スタッフが調整役となり、関わり、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お盆・お正月の訪問、手紙、地域で出会った際は言葉をかけ様子を伺い、関係作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、言動、表情を観察し、思いや希望を把握するように努めている。	入居前に自宅等を訪問して、職員が基本情報の共有を図ることができるようにアセスメントを実施し、事前にできるだけ多くの思いや生活習慣、価値観などの情報を得ることができるよう書類を整備していた。また、入居後は入居者の言葉だけではなく手を握る力加減など細部にまで気を配り、なぜそのような言動が出てくるのか等分析する姿勢を確認した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で関わりを多く持ち、想いを受け止め、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握や見極めに努め、一人ひとりの心身状態、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケース会議を行い、意見などを検討し、現状に即して作成している。	概ね月に1回のケース会議にて入居者全員の見直しを行い、心身の変化の著しい入居者については、プランの見直しを行って現状にあった内容のケアを提供していた。また、ご家族もチームの一員という認識で細かい情報提供を電話や郵送等で行っていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で、情報を共有しながら、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様々な気づきを共有し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブ、保育所、小学校、地域との交流、移動図書館の利用も取り入れ、安全で豊かな暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフが付き添い定期的に受診している。ご家族様同行受診もある。主治医に情報提供し適切な医療を受けられるように支援している。	ホームの近隣にあった医院は閉院したため、車で10分ほどのところに位置する病院へ通院している。通院時はご家族も一緒に行き、同行できない場合は電話にて報告している。また通院時の医師からの指示等については、受診記録や連絡ノートを活用して情報共有していた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の暮らしの情報や気づきを伝えて相談しながら受診の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行い医療機関と情報を共有している。入院中はスタッフが訪問し連携を取り、関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、緊急時は事業所全体でチームで支援に取り組んでいる。	現在、終末期の対応については実際に行ったことはないが、希望があれば法人の方針として実施していく。また終末期の指針や同意書も確認できた。一方、重度化していくケースについて、全介助状態となっても可能な限り対応していくことを確認した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えて定期的に訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的な避難訓練の実施、近隣住民の協力体制を築いている。	グループホームあいりんにおける消防計画や防災避難計画に基づいて訓練等実施されている。特に防火に関しては、定期的な訓練の他、コンセント周囲に埃がついていないか、毎月チェックする一覧表を確認した。一方風災害に関しては、土地柄、台風が脅威とのものであった。その対策としては、数日分の備蓄や法人の利用者で独居の方などは、避難場所として安全を確保する場所として、ホームを含む敷地内の施設を開放している。	地域の特性として、風災害のうち、特に台風が脅威であるとのことであった。実際に取り組まれている様子ではあったが、台風が接近した際のイメージをもってフローチャート等作成されて、今よりも確実な避難ができるように期待したい。また、備蓄品も揃えてあったが、中には消費期限のあるものも含まれると想定されるため、災害時の備蓄チェック表(仮称)を作成され、毎年チェックをできるようにして、より安全安心を担保する取り組みも重ねて期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけに配慮しながら対応している。	人権意識の徹底については、外部研修等活用しながら浸透に努めていた。また、入居者への言葉使いや配慮等については、現場レベルにおいて都度職員に確認を行ったり、粘り強く指導する体制を確認した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で思いや希望を探ったり、一人ひとりが自己決定できる場面を提供するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで支援するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を行ったり、希望に沿い美容院にお連れする。その日の服を一緒に選んだりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、誕生日には手作りケーキを提供している。できる方は一緒に手伝っていただいたり、味見をしていただいたりする。	毎日提供するメニューに関して、嗜好や季節の食材を用いて、手作りにこだわりながら提供していた。また、気分転換を兼ねてお弁当の日を設けたり、外食したりして食の楽しさを演出していた。その他、入居者ができる皮むきやちょっとした作業は、各入居者の心身の状況に合わせて実施していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態に配慮しながら、栄養摂取・水分確保の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフは口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔内の清潔保持、チェックをしている。義歯も毎日洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを極力使用しないように、一人ひとりの排泄パターンの把握をして布パンツで過ごしていただく、自立にむけた支援をしている。	排泄ケアには力を注いでおり、紙パンツ等から布パンツに変更するケースも数例確認できた。排泄は健康管理の重要な要素であるという認識のもと、排泄パターンの把握や、朝から牛乳を飲む習慣を推奨する等、食事や飲水とも関連付けてケアにあたっていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に工夫して、繊維質・乳製品の取り入れ、水分量、運動、一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに応じた入浴支援をしている。入浴でのコミュニケーションを大切に支援している。	基本的なスタンスとして、毎日午後から入浴を実施することを基本としていた。その中で入りたくない入居者は無理強いせず部分的に清拭するなど配慮していた。その他、シャンプー類なども画一的なものではなく個人に好きなものを準備してもらい使用していた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況の把握において、体調や希望に応じ休息していただいている。運動・散歩を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をスタッフが把握し、服薬ファイルを使用して支援している。変更があった場合は情報を共有し、観察・記録に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、力量にあわせた役割、楽しみごとを暮らしの中で支援している。外出・行事など気分転換の支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望で支援している。ドライブ、散歩、買い物、近くの神社参拝支援もしている。	入居前のアセスメントにて生活背景を押さえた上で好みの場所や生活圏域の確認はなされていた。年間を通して計画的な外出企画もあるが、時間がある時は近くの神社や保育園等、その時の状況や意向に応じて外出する機会を設けていた。また、希望する入居者は、年に1回のお泊り旅行にも参加でき、気分転換できる機会を多く創出していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望があれば、ご家族様の了承を得て所持していただくようにしている。一緒に買い物に行ったりして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し整理整頓をしている。室温・湿度を配慮して、リビングや居室も季節感を工夫している。食卓・窓辺にも季節の花を飾っている。	ホーム内の居住空間は、特に季節感を感じられるような飾りつけを優先して演出していた。実際に「秋」をテーマにした飾りつけが多く見受けられ、入居者が作られたものも多く装飾してあった。その他、特に温度や湿度計が多く設置しており、感染症対策の一環として取り組まれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食卓では気の合った者同士思いおもいに過ごせるように席の配置を工夫している。一人で過ごすときは見守り支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある品を置いたり、使用していたタンス・枕・布団、自宅に近い雰囲気を作り、ご家族様の写真を飾り工夫している。	居室内には長く使っていた家具や、ご家族の写真、入居者が作った飾り物など、殺風景にならないように工夫がなされていた。また、居室内の湿度にも注意を払っており、定期的に濡れたタオルを設置する取り組みを確認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置など危険リスクの回避に努めている。安心安全の自立した生活が送れる支援を工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	株式会社 新上五島在宅ケアセンター		
事業所名	グループホームあいりん 二番館		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果確定日	平成27年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4271601223-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成27年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりを、人と人とのふれあいを大切に」の理念に基づき、個人の課題をその人らしさと受けとめることにより、その人に合った関わりを重視させて頂いています。課題を問題として対応するのではなく、プラスの役割となる視点に変える対応を心がけています。「笑顔がいっぱいさきますように」をテーマに表情豊かに暮らせる雰囲気作りを大切に、入居者様とどれだけ長く関われるかその人らしく暮らせる支援に力をいれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	心と心のつながりを人と人とのふれあいを大切にを理念に掲げ、住み慣れた地域での暮らしを大切に考え、関係性の継続も踏まえながら、その人らしく生活する事を重視したケアを目指しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と地域の方との関わりを大事に、老人会、小学校、保育園の慰問、自治会行事にも積極的に参加させて頂くことで地元の方々との交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での研修会等参加し、認知症ケアの啓発に努めながら、認知症に関する相談があれば、話を伺い支援の方法をお伝えしたり、支援を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様への支援内容、取り組み状況など報告を行い、また意見や要望を伺うなど話し合いの場を持つことにより、サービスへの向上に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方に運営推進会議や行事参加の機会を持つことにより、アドバイスを頂きながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、扉の鍵をかけることはもちろん身体拘束による弊害を理解し利用者様に心理的な不安感や閉塞感を与えないよう、安全面に配慮しながらの支援に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会をもち、虐待が見過ごされることがないように、常々職員間でも声掛けや対応にも配慮するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会があったが成年後見制度を必要とするケースが今までにないのと、また実際にあっても対応する職員も限られてくると思うので、職員全員が支援できる体制に整えていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様の状態の変化による、ケアに関する考え方や取り組み、対応可能な範囲についての説明、介護度の変更による利用料金の説明等、その都度説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の表情や態度、会話から思いをくみ取り察する努力をし情報はミーティングや連絡ノートに記載し特定の職員間だけで終わらないようにしています。推進会議でも意見、要望を伺い参考にし反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	状況に応じ必要な際にはミーティングを開き意見を聞くよう場を設け、日頃からコミュニケーションを図り、問いかけを心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得にむけた支援、職場内で活かせる環境作りを心がけて頂いてます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会、事業所以外での開催される研修に参加、受講できる環境を与えもらっており、常々向上心を高める意識をもつよう、研修報告や、報告書も閲覧できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や関連事業所の研修会により、交流する機会をもつ中でモチベーションを上げ、質の向上を目指し励んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安をも安心に変えていけるような信頼関係を築くことで、職員が利用者様に受け入れられるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が困っていることを傾聴し思いを察しながら、求めていることを理解し、どのような対応ができるかを話し合い信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の思いを傾聴し、改善に向け必要なサービスの担当者に相談するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との関係性が、支援する側、される側の立場におかれるだけではなく、利用者様の得意分野で力をだして頂けるよう努め、感謝する気持ちをもつ関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換に努めながら、利用者様を共に支えることを考えていける関係を築いていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで同様、利用していた美容室に行くことや、お墓、神社参り、地域での行事へ参加することにより、継続的な交流に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間やおやつ時間は職員も一緒に入り、会話することを心がけ、利用者様同志の会話が広がるよう支援するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に遊びに来て頂けるよう声をかけさせて頂いたり、葉書きでの挨拶や行事参加への声かけ等続けることにより、関係性を保つよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話での言葉での表現や表情から思いをくみ取るよう心がけ、ご本人様の思いに近づけるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中で本人様自身の語りや、ご家族様、お知り合いの方にもお会いする機会があれば、こちらから折に触れ傾聴し、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活リズムを大切に把握することで、できないことよりも、できる事に視点を合わせ着眼するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様はもちろんのこと、ご家族様との日々関わりの中での思いからアセスメントも含め、カンファレンスを必要時行い、計画に反映させるよう心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄関係等、身体的状況の記録を把握し、ケアの実施を共有する事により、利用者様の様子や、本人様の言葉、状態の変化は個別ファイルを利用し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の要望があれば送迎や訪問先での見守りや介助等、柔軟な対応の取組みを行い、満足して頂ける様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様と地域との接点を作る様努め、地域での暮らしが可能となるよう支援している。警察や民生委員の方との意見交換する機会の場も設けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様からの希望はもちろんのこと、気になる点があれば事業所からも、ご家族様や医療機関への相談は密に行い支援に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に医療面での不安な点において相談、助言をもらっており、地域連携室においても活用し、相談、対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時において、職員は頻回に見舞うよう心がけ、状態の把握に努め回復状況により事業所内での対応が可能な段階でなるべく早期で退院できるよう、ムンテラの都度アプローチしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針を定め、状態が変化することにご家族、医師、事業所との話し合いをもち支援に繋げるよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て緊急時の対応や、蘇生術の訓練を行うなど、周知徹底を図り意識を高めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	想定マニュアルを作成し、利用者様を交え避難訓練を定期的に行っています。地域の協力体制も運営推進会議の時等、協力をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導時の声かけなど人前でのあからさまに介護することがないように配慮したり、事業所内でのプライバシーに関することにおいて話さないよう心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状況に合わせた声かけを心がけ筆談や表情を見極め、選択肢を提案し自己決定しやすいよう働きかけます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流の中でも体調に配慮しながら休息や、散歩等は、状態を見ながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室にお連れしたり、洋服と一緒に選んだり、お化粧品も日々の変化として取り入れたり、また産毛や髭の処理も気がけて行うようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬な食材や頂きもの等活かしながら、調理過程を役割をもって、一緒に行いながら力を発揮して頂き食事が楽しみなものとなるよう活動して頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取状況を毎日記録し、情報を共有し、一人、一人の状態の把握に努め対応に役立てながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の重要性を理解し、毎食後の歯磨きと義歯の洗浄を個々の力に応じて介助や見守りを行っている。口腔状態に合わせガーゼや舌磨きも歯ブラシやスポンジを使用しケアしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない利用者様にも排泄チェック表を使用し、下着に尿とりパットのみ使用で誘導することにより、トイレでの排泄を促し支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を考え、排便の大切さを理解した上での、食材、乳製品の取り入れなど便秘予防に取り組みながら、散歩や運動、腹部マッサージでの自然排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の湯の温度の好みや身体状況によっての二人介助等、湯へ入る事への負担感や抵抗感を配慮しながら、個別にあった入浴支援に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めることで、安眠に繋がるよう支援しつつ体調によって、昼間の休息も取り入れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人様の薬であるかの確認、口元までお運びし服薬できているかの確認をします。薬の処方や量の変更があった場合は状態観察を強化し、変化が見られる時は医療機関への相談を行うように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理手伝いや、テーブル拭き、箸並べや洗濯物たたみ、貼り絵等、得意分野でのお手伝いをお願いし、感謝の言葉を伝えるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人様の希望に応じて、散歩やドライブ、外食やお弁当をもって出かける等の機会を作り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した時や行事への参加した時など、少額ではあるが、できる方には所持したり、払って頂く等の支援したりを行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へのお手紙や、本人様への希望により電話をかけたり、またこちらから声かけをしたり、電話できるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を置いたり、使いやすい配置にしたり、季節感を味わえる食べ物や花を行事で取り入れたりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓辺にソファを置き、景色を眺めたり独りになれる空間や、気の合った方同士で話ができる環境を心がけ居心地良く、くつろげるスペースをつくるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや鏡台など使い慣れた家具や時計、布団など、自宅でしようしていた物など持ち込まれ、安心して頂けるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂場等の表示、自分の居室が解りやすいよう表札や顔写真など、理解しやすい環境作りに努めています。		